

20 放射線科研修プログラム

プログラム責任者:三田 祥寛

1. 到達目標

A) 一般目標

当院は地域医療や救急医療に力を入れているが、現代医療における画像診断の占める役割は非常に重要なものとなっている。放射線科では、CT、MRIなどの先進的医療機器を駆使し、各診療科の様々な疾患に対応している。画像診断を通じ、各種疾患の知識や診断技術を研修する。

B) 行動目標

- (1) 放射線科チームの一員としての役割を理解し、医療スタッフとのコミュニケーションがとれる。
- (2) 各種画像検査の目的、問題点を理解し、最適な検査方法を立案できる。
- (3) 放射線被曝を理解し、被ばく低減について配慮できる。
- (4) 放射線検査の適応と禁忌、造影剤の適応と禁忌を理解し、安全かつ適切な検査オーダーができる。
- (5) 患者に検査目的、検査方法、副作用などについて適切に説明できる。
- (6) 血管造影検査、IVR の手技を理解し、助手として立ち会う事ができる。
- (7) 画像所見を理解し、報告書を作成できる。
- (8) 各種画像処理を理解し、読影に利用できる。
- (9) 核医学検査に使用する医薬品を理解し、説明できる。

2. 方略(On the job training(OJT))

- (1) ローテート開始時には指導医と面談し、研修目標を設定する。終了時にはフィードバックを受ける。
- (2) 院外からの検査依頼の診察に立ち会い、検査オーダー、検査説明、適応や禁忌の判断、IC を行えるようにする。
- (3) 各種画像の読影、報告書の作成を行う。作成した報告書は一時保存し、指導医との読影検討会を経て登録する。
- (4) 血管造影、IVR に参加し、前後の回診を行う。
- (5) 適宜勉強会、研究会などに参加する。

3. 評価

- (1) 研修医は、EPOC2 の研修医評価表で、臨床研修到達目標項目の自己評価による研修達成度評価を行い、ローテート終了時に自己評価記載を完了する。指導医は、同評価表の研修医自己評価を確認し、当該ローテート研修の指導医評価記載を完了する。指導医による評価結果は EPOC2 上でフィードバックされる。
- (2) 臨床研修指導医は、EPOC2 上で診療・手技・患者マネジメントについて適時評価を行う。
- (3) 臨床研修指導医または上級医は、本カリキュラムの行動目標のすべてに対する観察を行い、ローテート面談を適宜実施し、形成的評価をフィードバック面談シートに記録する。ローテート終了時の面談では、適宜看護師などの指導者も入り、総合的評価のフィードバックを行い、フィードバック面談シートに記録する。

- (4) 臨床研修指導医は、研修医が作成した病歴要約により、経験すべき症候、疾病、病態に関する理解度について WPOC2 上で形成的評価を行う。
- (5) 上記評価の上、次のローテーションで何を学ぶべきかなど、目標達成の方向性を見出せるように省察の時間をもち、話し合いを行う。

4. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土(第1)
AM	読影	カンファレンス 読影	読影	読影	読影	読影
PM	読影	読影	読影 IVR	読影	読影	読影